

「出題の意図」

選抜区分	2023年度（選抜区分：一般選抜 前期日程） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：課題論文）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>1. 課題論文における出題の背景と求める能力</p> <p>2022年度一般選抜試験の課題論文と同様に、次の三つの点、すなわち（1）地域創生を考え実行していく際に必要な知識に関する点、（2）地域創生学群の学生が備えておいて欲しい能力について書かれていること、そして（3）受験生にとって平易で理解でき、自分ごととして想像しやすいことを出題文の選定基準とした。その結果、樺沢紫苑著の『極 アウトプット「伝える力」で人生が決まる』を出題文とした。</p> <p>設問は、「以下の文章を読み、「アウトプットとコミュニケーション能力の関係性」について簡潔にまとめたうえで、頭ではわかっているが、アウトプットできない人に対してどのように行動を促すか、あなたの考えを述べなさい。分量は全体で400字以内とする。」とした。</p> <p>設問の意図は、本文の内容および設問の指示を正しく理解し、課せられた課題に対して適切な応答ができているか、また、本文の内容に照らし合わせながら、他者に納得してもらえるような明確な根拠を示しつつ、自分自身の意見が述べられているかについて、評価のポイントとした。加えて、自分の意見を他者に伝えるスキルとして正しい日本語を使うことができるか、一定の語彙力を有しているかも評価のポイントとした。</p> <p>2. 解説</p> <p>出題文では、2点についての回答が求められている。①著者の主張を簡潔にまとめること、②自分自身の考えを示すことの2点である。</p> <p>①については、アウトプットの仕方によって自身のコミュニケーションに大きな変化を及ぼすことが書かれている。好ましいコミュニケーションをとるためには、「伝え方」が重要な要素となるから、「話す」「書く」という行為を「正しいアウトプット」の仕方ですること、よりよい人間関係を築くことができるとされる。このことが簡潔にまとめられているかが評価のポイントとなる。</p> <p>②については、しっかり本文の内容を踏まえた上で、論理的な文章構成になっていることが評価のポイントとなる。また単なる自分の思いついた意見を述べるだけでなく、「他者に納得してもらうために、明確な根拠を示している」ものについては、高評価とした。</p>

「出題の意図」

選抜区分	2023年度（選抜区分：一般選抜 前期日程） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>一般選抜入試では、地域社会の諸問題に強い関心を示し、探究心を持つ学生を求めている。集団討論では、求められている課題を的確に理解し、それに応じた自分の考えを明確に表現できること、その課題の解決に向けて主体的かつ積極的に関わろうとしていること、そして、入学後、地域の方々と協働していくためにも必要となる基本的なコミュニケーション能力を有していることが重要になる。</p> <p>今回の2023年度一般選抜入試においては、志願者に対し事前に集団討論課題を提示した。</p> <p>課題の内容は、『北九州市立大学地域創生学群でもう一人教員を追加できるとしたら、どの分野を専門とする人を追加すべきか、グループで一つ提案してください。』とし、グループで討論することを求めた。</p> <p>出題の意図としては、上記評価ポイントに加え、「地域」や「地域創生」に対しどのような認識を有しているか、また、それに対する自らの考えを他者との積極的な議論を通じて深めつつ、議論のとりまとめに協働して貢献することができるか、ということを見定めるところにあった。</p> <p>最後に、集団討論のテーマに関連した発表の準備をすることを事前に課していたが、当日の発表の質が低く、明らかに準備不足であるものが多く見られた。志願者は短時間でもできる限り質の高い発表ができるよう入念な準備をしていただきたい。</p>